

# 防災教育の推進

## ～防災部、防災クラブの実践をとおして～

### はじめに

長生村は千葉県唯一の村であり、房総半島東部、太平洋に面した九十九里平野に位置している。年間を通して温暖な気候で、緑の田園風景が広がっており、東京駅までは茂原駅からの特急利用で約1時間と、周辺都市への利便性に恵まれた距離にある。村内には中学校1校（生徒数289名）、小学校3校（児童数495名）、こども園3園（児童数254名）があり、15歳の春を笑顔で迎えることができるように施設分離型園小中一貫教育を行っている。

本村は過去、1601年（慶長6年）に大津波が発生し、大きな被害を受けた。1703年（元禄16年）の津波では、九十九里浜一帯が被災し、一松郷の死者は845人、当時の二つの村が全滅したと伝えられている。また、避けることのできない災害は時代を越えて続き、地域では豪雨による災害が数年ごとに起きているのが現状である。このような状況において、学校では、防災教育のより一層の充実が必須であり、児童生徒の安全意識と実践力をさらに高めていく必要がある。

- (1) 災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。
- (2) 災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。
- (3) 自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにする。

文部科学省では学校教育の防災教育のねらいを前の3点としている。

これらのねらいを具現化するため、方策の柱の一つとして長生中学校では防災部、3小学校では防災クラブを設立し、防災教育を強く推進している。以下にその実践を紹介していく。

### 1. 長生中学校 防災部の取組

#### (1) 防災部発足

令和2年度から防災部の発足を検討し、令和3年度には、村内の教職員と教育委員会が東京都荒川区を視察した。荒川区ではすべての中学校において防災部が活動しており、各校の取組を参考にさせていただいた。また、修学旅行で当時の中学校3年生は、東日本大震災の被災地である南三陸を訪れ、語り部の話を聞き、被災状況や復興に向けた取組を目の当たりにした。

そして令和3年6月16日、長生村長が参列の下、長生分署消防隊員を招き、長生中学校に防災部（部員数66名）が発足した。罫線内はその発足式で防災部部長が読んだ宣誓文である。

本年度、長生村立長生中学校に新たに設立された防災部は、長生村のためにと志をもって入部した有志の部活動です。これからの活動の中で「長生村が災害に遭遇したとき、地域に貢献できる中学生」を目指し、活動していきます。

10年前、2011年3月に発生した東日本大震災で多くの人命が犠牲になり、未だに行方不明者もいます。

その一方で、地震発生後の避難や避難所での

生活支援に中高生が果たした役割が非常に大きいと報道もされました。長生村では日中、私たち中学生が一番機動力のある人材だと自負しています。災害時に率先して地域に貢献できる防災意識の向上と地域に貢献できる中学生を目指し、これから活動することをここに誓います。



【防災部発足式】

## (2) 防災部の諸活動

### ① 長生村避難訓練の参加

毎年10月に実施される津波を想定した村の避難訓練において、村内約34か所の避難所で避難者の受け入れと誘導、非常食の配給等を行っている。村役場の職員と協力して、村民の安全安心のために活動している。



【避難所での配給活動】

### ② 陸上自衛隊との活動

陸上自衛隊の本校への訪問と防災部の陸上自衛隊駐屯基地訪問を隔年実施している。

東日本大震災で人命救助活動に携わった自衛官の講話

を受講し、災害派遣に必要な機材の使用体験や基地内の見学等を行った。



【災害用機器の使用体験】

### ③ 土のう作り

長生村土建組合による土のうについての講話を受講し、実際に使用する土のうを作り、土のうの組み方も身に付けた（作成した土のうは長生村役場に保管中）。

### ④ トルコ・シリア地震募金活動

令和5年2月に発生したトルコ・シリア地震の被災者を支援するために、防災部が全校生徒と村内各小学校の防災クラブに募金活動を呼びかけた。村内小中学校の4校で募金活動を実施し、集まった約15万5千円を日本赤十字社に寄付した。

### ⑤ 武蔵野美術大学生とのワークショップ

「もし長生中学校が避難所になったら」との想定の下、避難所の運営方法とルール作りをとおして、被災者の生活と心情を考察し、防災意識の高揚を図った。



【大学生との避難所マップ作り】



## ⑥ 双葉電子工業訪問

災害時に使用するドローン（避難誘導と生き埋めに遭った人の持つ携帯電話の微弱電波を察知した人命救助）についての講話を受講し、最先端の災害用各種ドローンのデモンストレーションを見学した。



[災害用ドローンのデモンストレーション]

## ⑦ 一宮川流域治水工事見学

毎年8月、一宮川流域における治水工事についての講話を受講し、水害を減災するための工事現場の見学と土木に関する体験活動（重機搭乗、測量、コンクリート練り等）を行っている。

昨今、長生地区で頻発している河川氾濫の減災のために日々尽力されている方々の取組を見て、防災意識を高めている。



[一宮川河川工事現場の見学]

## ⑧ 千葉県消防学校訪問

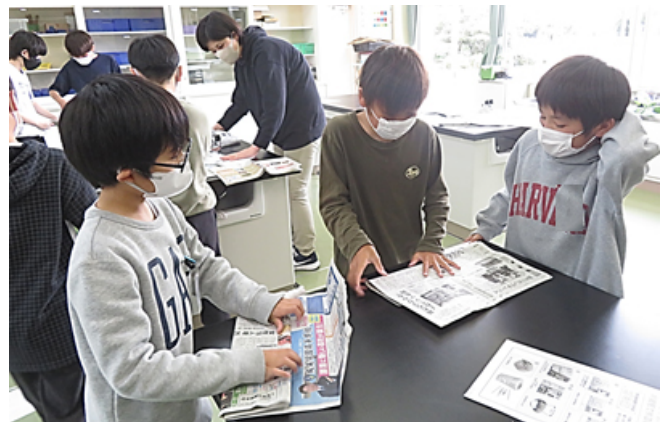
市原市にある県消防学校にて、防災に関する講話を受講し、消防学校の設備見学、救助訓練体験を行った。

## 2. 一松小学校の取組

一松小学校では、令和3年度に長生中学校で防災部が立ち上がるのに合わせ、防災についての意識をつけられるようにと防災クラブを新たに設け、月に一度程度の活動をしている。

防災クラブは4年生から6年生までの10名前後の児童で活動しており、活動内容として災害時にあるとよいもののアイテム作りや、知っていると役に立つような体験等を行っている。

年度始めの第1回目の活動は毎年、新聞紙スリッパ作りを行っている。作り方の説明図を見ながら新聞紙を実際に折っていき、でき上がったものの履き心地をみんなで確かめた。



実際の災害時にはこのスリッパがあることでいつも使っているものの代替ができることを体験することができた。その他にも、段ボールいす・ベッド作り、ロープ結びの体験、簡易トイレ体験、長生分署の見学、防災かるた等を意欲的に体験した。また、学校周辺を回り、危ない場所がないか確認をしていき地図にまとめる、安全マップ作りも行っている。

令和5年度は、村内の全小中学校で連携し、中学校の防災部の活動内容を知る活動を行った。活動内容についてパネルの写真を見たり説明を読んだりし、中学生への感想を書いた。感想とともに自校の活動内容も添え、ラシヤ紙にまとめて中学校の文化祭に掲示をした。

このように、本クラブでは防災に関する活動を行う中で、三角巾を使った救護や防災食の作り方などの新たな



活動も取り入れ、児童の防災への関心を更につけられるようにしていきたいと考えている。

### 3. 八積小学校の取組

八積小学校では、防災クラブを設置し、小学生でも主体的に実施できる防災活動に取り組んでいる。

令和5年度は、気軽に遊びながら学ぶことができる防災かるたの作成や、防災クイズを記載した啓発ポスターを作成し、掲示をした。また、長生中学校防災部とも連携し、活動報告等の交流活動も行った。



長生村で起こり得る災害を想定し、自分たちの命を守るために、何を意識し、何ができるのかを考え、他の児童に啓発できるような活動となるよう心がけている。

令和4年度から、PTAバザーに代わるものとして、保護者や地域の方々、関係団体と連携し、「親子ふれあいイベント」を実施した。その一環として親子で体験できる防災教室を行い、防災の専門家である防災士や、赤十字奉仕団の方々をお招きし、様々な内容の防災教室を開いて親子で体験しながら防災について学んでいる。具体的には、家庭でできる防災対策の講習会や防災クイズ・ゲーム、水消火器を使って消火を模擬体験する消火器訓練、救助や搬送など様々な使えるロープワークの講座、三角巾を使った応急手当や新聞紙利用での防災グッズづくりなどである。親子で一緒に体験を楽しみながら、家族が共に考え、学ぶ機会をつくることで、家庭における

防災対応力向上を目指している。そして、日頃から学校だけでなく、家庭や地域、更には村全体としての防災意識が高まることへとつなげたいと考えている。

### 4. 高根小学校の取組

高根小学校では、令和4年度よりNPO法人首都圏防災士連絡会の防災士をお招きし、第5学年と第6学年で防災教育出前授業を行っている。授業を行うにあたり、防災士の方と事前に打合せを行い、長生村の実情や児童の実態等を踏まえ、系統性を図った授業を行っている。

第5学年では、風水害対策〇×ゲームを行った。様々な被害の状況を想定し、家庭でできる対策や避難の仕方について、体を動かしながら学んだ。



第6学年では、東日本大震災の体験者から話を聞いたり、被災地区の写真を見たりして、災害の怖さを学んだ。また、長生村の避難場所や避難の仕方についてスライドショーを用いて学習をした。



令和5年度、第5学年では、映像から千葉県で起きた台風による被害や水害について学んだ。また、村内に設置されている海拔を記した看板や津波ハザードマップから、津波の想定範囲を理解した。さらに、近隣の地域の石碑等の画像から、過去に起きた災害による被害について学んだ。

第6学年では、水害の様々な場面を想定した、クロスロードゲームを行った。児童一人一人が二者択一の選択を行った後、グループトークを行い、最善の行動を考えることができた。事前に家族で避難するときのルールを決めておくことやその場に応じた状況判断が大切だということを学んだ。

授業を終え、児童は、防災教育出前授業で学んだことを家庭内で話し合った。保護者からは、「災害に備えて準備をしていきたい」「連絡手段を決めておきたい」等の感想をいただき、家庭の防災への意識も高まった。

## おわりに

東日本大震災では、地震や津波発生後の避難や避難所の生活で中学生や高校生が大きな役割を果たした。災害時に地域に貢献できる児童生徒の育成を目指し、長生村では中学校のみならず村内の小学校においても防災クラブが活動しており、地域をあげて防災教育を推進している。

その取組が認められ、昨年12月に長生中学校は千葉県地域防災力向上知事表彰を受賞した。

さらに、学校・地域・行政の連携強化により、防災に関して学ぶ機会を設け、児童生徒が日常的な備えを意識し、災害時には的確な判断と対処ができる力を育てていきたい。さらに自助・共助の考えのもと、地域社会の防災安全活動に進んで参加、協力し貢献できる資質・能力を培っていきたい。